



▲からいもフェスティバルの「からいも掘り大会」は毎年行列ができるほどの名物イベント。さらにおいしいからいもを目指して、今年は土にもこだわった。

▲町民と役場職員が集まり、今年の活動や祭りの準備を話し合う明日観の会議。

伝統を守る 旗振り役

「明日の観光大津を創る会」会長
いまむら せいし
今村 誠志さん(室)

「ついで祭り」や「からいもフェスティバル」など、町を代表するイベントを手がける「明日の観光大津を創る会」(通称明日観)。その会長を務める今村誠志さんにクローズアップした。

家業の自動車関連事業を営む一方で、明日観の会長や町社会教育委員を務めるなど、地元の人たちとの繋がりを大切にしている今村さんには、誰とでも打ち解けられるような温かさがある。大津町生まれ、大津町育ち。子どもの頃から町の伝統や文化に親しんできた。「昔はいたるところに地蔵小屋があったが、時代の流れとともに減っていった。祭りや伝統が途絶えることもあった」と振り返る。明日観は「町の文化や歴史を後世に残したい」という思いなどから、行政と民間が一体となって昭和57年に発足した。実行部隊は町民が中心。自由に意見やアイデアを出し合いながらイベントをつくり上げている。

「新しいことを生み出すよりも、続けることの方が難しい。伝統は一度途絶えたと復活が難しいから、誰かが旗を振り続けることが大切」と話す今村さん。人口増加と時代の流れで町の姿が変わるなかでも、町民主体で祭りを守り続けられたのは、人と人との繋がりを大切にしている大津町だからこそかもしれない。

毎年11月第2日曜日に行われる「からいもフェスティバル」。県内1位の生産量を誇る町のからいもを広めようと始まり、今年で35回を迎えた。台風の影響を除き、毎年休むことなく開催し続けてきた。伝統の灯を絶やさぬよう、新しい挑戦にも意欲を見せる今村さん。その背中が、町の誇りを次代へつなぐ旗印となる。

ついでの声

10月、11月はイベントが多い時期でした。夏の異常な暑さゆえ、秋にずれ込んだイベントも増えましたね。人一倍汗っかきな私は、夏の写真撮影で熱中症になりかけたこともあり、この時期の撮影はありがたかったです。秋の日差しの中、楽しそうに笑い、イベントに参加する皆さんを見て私もほっこりしました。

昨年、インフルエンザで修学旅行に行けなかった娘。今度受験を迎えます。今年は絶対にインフルエンザにかからないよう、我が家は手洗いうがいを徹底中です。皆さんもインフルエンザなど感染症にはお気をつけください。(M.S)



UD FONT
易やしく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。

掘って、
知って、

楽しんで！

詳しくは
11ページ
第35回
からいも
フェスティバル開催

大津のことがもっと好きになる情報誌

広報

おおづ

12
December 2025

Public relations
OZU TOWN

広報おおづ 2025 12

発行・編集 ■大津町・総合政策課
〒869-11292 熊本市東区大津町大字大津1233番地
TEL.096(293)3118 <http://www.town.ozu.kumamoto.jp/>

印刷 ■ホーテ印刷株式会社
※広報おおづは環境に配慮して再生紙と植物油インクを使っています。